

真実は未来に明らかとなる——森島先生への批判に答える

2012年9月

宗教問答1：「世界平和の祈り」は神のひびき

【Eさんのご意見-1】

確かに森島さんのご意見、とてもよく理解できます。でも、昌美先生のみ教えに対する公然としたご批判は、調和を旨とする五井先生のみ教えと御心にそぐわない気が致します。

【お答え-1】

「森島さんのご意見、とてもよく理解できます」と書かれていますが、私の教えを本当に理解していただいたのでしょうか。私の教えを本当に理解されたのであれば、そのようなご感想はありえないのですが。

五井先生の説く真実の調和の行為とは、どんな誤った行為を見ても逆らわずに、ただ黙って批判をしない無批判の人間になることではありません。業想念に妥協しても真実の調和は生まれません。誤りを見ても、それを善であると思おうとすることは、業想念への妥協であり、偽善であり、人類の進化を遅らせる行為となるのです。業想念への妥協は神のみ心に反する行為であり、五井先生のみ教えに反する行為でもあるのです。そして、よくよく知っていただきたいのは、昌美先生の誤った教えを批判しているのは五井先生であり、五井先生のみ教えであるという事実です。それは五井先生のご本を読めば誰にも分かる明々白々の事実なのです。五井先生のご本には、昌美先生の説いている誤った教えに対する烈しい批判の文章が所々に書いてあるからです。

あなたは今、五井先生に対して批判なさっているのです。

批判と悪口は違います。本心の愛の心で相手の業想念を浄める行為を批判と言い、自己の業想念で相手を責める行為を悪口と言うのです。あなたには、「批判してはいけない」と言いながら私を批判している矛盾に気づいてほしいと思います。「批判しないこと」をご自身の信念とするならば私に対しても批判しないことです。

【Eさんのご意見-2】

五井先生のみ教えを信奉する者であるならば、五井先生がお選びになった指導者の答案の答えは神々さまのご採点にお任せした方がいいのではないかと考えるのです。森島さんの五井先生を敬愛なさる真剣なお気持ちには敬意を覚えます。でも、五井先生は拍手して下さるでしょうか？ 五井先生のご計画は遠大で、私たち肉体人間の思考など及ぶべきもありません。ですから、昌美先生のご指導を批判なさることは五井先生を否定なさること

になると思うのです。

【お答え-2】

神々さまのご採点にあなたもお任せして下さい。五井先生から「あなたの自由に生きなさい。自由に生きるんだよ。何でも自由にやればいいよ」と、私は直接に承諾を得ているのです。私は五井先生に私の生命を全託し、五井先生は「あなたの生命は確かに私が貰いました」とご返事を頂戴しているのです。私の生命は五井先生の生命であるのです。私は五井先生に導かれるままに行動しているのです。

一口に私が「昌美先生のご指導を批判している」とお書きになっていますが、私は「世界平和の祈り」を祈っている昌美先生を批判しているわけではありません。五井先生のみ教えに反する「想念の法則による願望成就行」「我即神也、人類即神也の真理宣言行」を説いている昌美先生を批判しているのです。

私は五井先生を否定してはおりません。五井先生の教えを否定しているのは昌美先生の方であるのです。そこで五井先生は、昌美先生を助けようと、昌美先生の誤った教えを軌道修正するために私を通して昌美先生の誤った教えを指摘し、真実のみ教えを改めて説いて下さっているのです。

【Eさんのご意見-3】

この世の中での意識の変革の難しさと人類の業想念の深さを想う時、指導者である昌美先生のご使命の大きさをご苦勞が偲ばれます。如何なる理由があっても、私たちの心の中に二元対立的批判否定の想いを住まわせることは、五井先生が指し示して下さいった絶対的光明思想に反しますし、何よりも自分の大切な本心が輝き出ることを妨げてしまいます。

【お答え-3】

五井先生の光明思想については私もたびたび解説しておりますが、二元論とは「善と悪がある」という意味ではありません。また、悪の存在を認めまいとして、悪行為を善行為と見たり、悪人を善人と見たり、嫌いな人を「好きな人」と言ったり、聖者と悪人を同一視することが一元論ではありません。一つの原理で説明する説を一元論と言い、相異なる二つの観点から説明する説を二元論と言うのです。たとえば「人間は完全円満な神の子である。悪も病気も不幸も無い」という一つの観点と、「善因善果、悪因悪果という因縁因果の法則の中で人間は生きているのだ。善いことを考えれば善い人生になるが、悪いことを考えれば悪い人生になる。あなたの人生はあなたの思った通りになるのだ。もしあなたが病気や不幸で苦しんでいるならば、それはあなたの過去に犯した想念行為の結果なのだ。誰の責任でもない、あなたが悪いのだ。幸福な人間もいれば不幸な人間もいる。人間は不完全な善悪混淆の存在である。悪も病気も不幸も存在しているのだ」という別の観点は、相異なる二つの観点であるのですが、この二つの矛盾した観点を同時に持つ説を二元論と

言い、そのような観点を持つ人を二元論者と言うのです。

五井先生の教えは、「人間は本来、神の子である。業想念は今は存在するが、消えてゆく姿であり、未来には業想念は完全に消滅し、人間は完全な神の子になる」という中庸実相一元論であるのですが、昌美先生の教えは、五井先生のその教えに加えて、生長の家と同じく、「人間は神の子ではなく、不完全な存在である」という思想が根底にある現象論（想念の法則論・心の法則論）を説き、さらに加えて、「人間は神の子、完全円満。悪も病気も不幸も無し。我は神なり、人類は神なり」という理想実現を焦る余り、理想に片寄り、現実を無視してしまった理想偏重実相論をも説いているのです。

つまり、昌美先生の教えは三元論となってしまうのです。昌美先生は、ある時は「我は神なり」と真理の言葉を宣言するように説いたかと思うと、次の瞬間には「業想念は消えてゆく姿」と五井先生の教えを説いたり、「あなたの運命はあなたが作るのですよ」と業因縁の話の説いたりしているのです。三元論なので当然矛盾したお話であるのですが、それが巧みに混ぜて使われていて、聴衆の信徒さんたちには、薄々と矛盾しているようには感じるけれども、五井先生の「消えてゆく姿で世界平和の祈り」の教えも忘れずに説いているために、さも正しい教えであるように納得してしまうのです。

昌美先生は、五井先生の光明思想の真の意味を残念ながらまだ理解してはおりません。五井先生の光明思想に反しているのは昌美先生であり、皆さんの本心が輝き出ることを妨げているのは昌美先生の誤った教えであるのです。

【Eさんのご意見-4】

五井先生率いる救世の大光明霊団の大調和顕現のお働きもより地上近く現れ、活発化する事が期待される時となりました。ですから、今こそ森島さんのその荷を五井先生にお預けくださいとお願いしたいのです。救世の大光明霊団のお働きを地上に受ける器として、この器を無私にし、使っていただく、それが本当の五井先生へのご恩返しであり、み教えの道ではないでしょうか。

【お答え-4】

「昌美先生への批判をやめて下さい」と私にお願いしているのですが、昌美先生を批判することが私の目的ではありません。はっきり申し上げて、私は昌美先生を問題視しておりませんし、相手にもしていないのです。私の真の目的は五井先生の「世界平和の祈り」を人々に教えることであり、正しい宗教と誤る宗教の違いを教えることです。私は五井先生と一体となって、今後も「世界平和の祈り」を教えてまいります。如何なる反対念波を受けようと、私はこの信念を貫き通します。

救世の大光明霊団のお働きを地上に受ける器として使っていただくには、「世界平和の祈り」を祈ることです。想念の法則を用いて自己の欲する願望に執着したり、「我は神な

り」と真理の言葉を無理に宣言して偽善者になることではありません。「世界平和の祈り」を祈ることが本当の五井先生へのご恩返しであり、み教えの道なのです。

【結論】

Eさんは昌美先生を愛し尊敬する熱心な信者さんで、昌美先生の講話をよく聞いている方だと思います。五井先生のご本も読んでいるのですが、昌美先生の教えを全く信じ込んでいて、昌美先生流の解釈をしているために五井先生の真の教えがまだ理解できないのです。唯一会ホームページの教義や過去ログに書いた私の法話を殆ど読まずに、昌美先生への批判箇所だけが目について私を批判されたようです。

私は五井先生と昌美先生の教えを比較する時、生長の家には個人的な怨みはないし、生長の家の信者さんには申し訳ないのですが、昌美先生のお名前を出す代わりに生長の家と比較して解説することがあります。それはなぜかと言いますと、昌美先生の現在の教えは生長の家（日本教文社）の書物に影響を受けていて、生長の家の教えとそっくり同じであるからです。生長の家の教えにある行事を、タイトルや言い方を変えて、「この神示は神から下ろされたものです」と発表していると私は推測しているのです。この事実は生長の家の書物を読んで比較して見れば一目瞭然です。

五井先生のご本を読む場合には、生長の家の教えとの違いを比較しながら勉強しますと、五井先生の教えがよく分かってくるはずですが、それでも一人で研究しては中々理解できませんから、唯一会の集会に来られて私の解説を聴くことをお勧めします。宗教の道では、師や先達の法話を聴くということが一つの修行であるのです。法話を一度聴いただけでは理解できません。理解できても、行動で実践することは難しいものです。何度も聴いているうちに段々と分かってまいります。

唯一会のホームページを開設した頃は、私は孤立無援で、白光真宏会の会員の中で私を批判する人がたくさんいました。毎日次々と入れ代わり立ち代わり、メールや掲示板で私を批判してきたもので、その批判に答えることは大変な労力でした。しかし、今では私の考えに賛同して下さる方が増えてきて、グループの力を発揮できるようになり、私は非常に楽になりました。Kさん、Aさん、Oさんその他の同志のメンバーに私は大いに助けていただいております。

五井先生の教えを正しく解説できる講師は、現在の白光真宏会には一人もおられません。五井先生の教えを正しく解説しているのは私一人なのですから、私を批判する前に、私から学べるものを学んで、その上で昌美先生が正しいのか私が正しいのかをもう一度考えても遅くはありません。私がこの世に生きているのですから、過去世からの善因で与えられた今のチャンスを逃してはいけません。

世界平和祈るは神のみ心のひびきにあれば祈る楽しさ

「世界平和の祈り」を祈る時、私たちは神のみ心のひびきの中にいるのです。神のみ心と一体化した楽しさは何とも言えません。「世界平和の祈り」を祈る楽しさをあなたも会得して下さい。

宗教問答2：「世界平和の祈り」は「真理宣言行」よりも優れた行！

【匿名Bさんのご意見-1】

森島先生に、これはやめた方がいいのではないかとということを単刀直入に言わせていただきます。…（以下省略）

【お答え-1】

ご指摘の三点は確かに伺いました。私の話に納得できない人は無理に納得する必要はありません。私の話を信じたくない人は信じなければそれでよろしいのです。唯一会の掲示板は白光真宏会の掲示板ではありません。昌美先生を信仰し尊敬している信者さんは昌美先生を信仰し尊敬しているホームページをご覧になり、ご自由に発言なさっていただければよいので、唯一会の掲示板を読む必要がありません。私は、他の掲示板に出かけて行って「そんな発言はお止めになった方がいいのではありませんか」という余計なお節介は申しません。別の掲示板で私に対する批判を書きたければご遠慮なくご自由に書いて下さい。

では、三点についてご回答しておきましょう。

「大光明霊団が私に移った」というのは、「世界平和の祈り」を祈るところに救世の大光明霊団が働き、大光明を輝かすのですから、「世界平和の祈り」の完全性を信じないで雑行をしている人から大光明霊団が離れ、「世界平和の祈り」を唯一の行としている私に大光明霊団が移るのは自然なことです。しかし、これは前にも書きましたように、信じたくない人は信じる必要はありません。

次に「自分が五井先生の後継者である」との発言については、誤解されては困りますから改めて書いておきます。白光真宏会の二代目後継者は昌美先生です。それは五井先生が生前から定めていたものです。私は白光真宏会という組織としての後継者ではありません。私は五井先生のみ教えを守り、「世界平和の祈り」を守っていると申しているのです。その意味で私は五井先生のみ教えを継承し、「世界平和の祈り」を継承していると申し上げているのです。

五井先生のみ教えの後継者でありたければ、「我即神也」とか「願望成就行」など五井

先生のみ教えに反した教えを説くべきではありません。現在の昌美先生の教えは昌美先生独自の昌美先生教であって、五井先生教ではありません。五井先生のみ教えである「世界平和の祈り」一念の生き方を継承しているのは私たちであるのです。「私は五井先生の後継者である」と主張するならば、「世界平和の祈り」以外の行法を捨て、「世界平和の祈り」に全託することです。

さらに「昌美先生の指導方針である『真理宣言行』よりも『世界平和の祈り』の方が優れた行である」との発言については撤回するつもりはございません。「世界平和の祈り」は「真理宣言行」よりも優れた行法です。しかし、信仰はご自由ですから、『真理宣言行』が『世界平和の祈り』よりも優れている」と信じている人は、そのままその信仰をお続けになったらよろしいでしょう。いつかはご自分の誤りに気づくときがくるでしょう。

【匿名Bさんのご意見-2】

いくら批判されたところで、昌美先生がその指導方針を変えることがあるのでしょうか？

【お答え-2】

昌美先生は、何れご自分の教えの誤りに気づく時がくるでしょう。そして、深い後悔の中で五井先生に対して懺悔の涙を流されることになるでしょう。しかし、今すぐではありません。今生では気づかないかも知れません。霊界に行って五井先生から真実を教えられることになると思います。しかし私としては、今生のうちに何とか真理に目覚めていただきたいと努力しております。

【匿名Bさんのご意見-3】

昌美先生を本当の五井先生の後継者だと信じてついていっている信者さんの気持ちは？ 唯一会の掲示板で森島先生を非難されていたら、唯一会の会員の皆さん、会員ではなくとも森島先生を尊敬している皆さんはどう思われますでしょうか？ 少なくともいい気分はしないと思います。森島先生の過去ログなどを見ると、昌美先生を慕う方々の感情を害する発言があるのではないかと思います。どうか、森島先生、唯一会の皆さん、昌美先生を五井先生と同じくらいに尊敬されている人達もいらっしゃるのだということを忘れずにいただきたいのです。

【お答え-3】

昌美先生を信じている人は唯一会の掲示板には来ないと思いますが、昌美先生を「本当の後継者だ」と信じてついて下さい。私は何よりも「信仰の自由」を尊重いたします。

誰よりも私は昌美先生を慕っています。それは過去ログを読めば分かるはずですが。昌美

先生を慕っているならば、昌美先生の教えの誤りを勇気をもって進言することこそ真の愛ではありませんか。昌美先生の教えの誤りに気づくことなく、五井先生のご本もろくに読まないで、自分の感情を害されたと言って怒るような、そんなちっぽけな人間は相手にする気にもなりません。

昌美先生を私も尊敬しているから、私は「昌美さん」と言わずに「昌美先生」とお呼びしているのです。私は昌美先生の人格をけなしているわけではありません。「昌美先生の提唱されている『光明思想徹底行』『我即神也・人類即神也の真理宣言行』『想念法則による願望成就行』などは五井先生のみ教えに全く反した邪教であり誤りである」と私は指摘しているのです。「世界平和の祈り」は、昌美先生の提唱されているどの行法よりも比べものにならないくらい遙かに遙かに優れた行法であるのです。

私を非難したい人はご遠慮なく非難して下さい。私に非があればその誤りを改めます。私の主張のどこが間違っているのでしょうか。私に誤りがあればどんどん指摘して下さい。私は喜んで自分の誤りを直します。非難されることを怖がっていて「世界平和の祈り」を広めることなどできません。

「世界平和の祈り」は正しいのですし、私の主張も間違っていないです。私は神のみ心のままに行動しているのです。「世界平和の祈り」は絶対に正しく、絶対に強いのです。「世界人類が平和でありますように」の祈り言を非難する人は余程頭が狂っている人であって、常識的な人で非難する人はおりません。従って私に敵はありません。今こそ「世界平和の祈り」を広める勇気を出す時なのです。

宗教問答 3 : 「世界平和の祈り」は最易行道

非常に有意義だった昨夜の議論

昨日は日曜日ということもあって、皆さんの議論が弾んで楽しく読んでおりました。夜は皆さんが熱く議論をしていた頃、妻と二人でカラオケに行って歌を歌っておりました。Rさんの言う通り、この掲示板は「朝まで生テレビ」のような面白さがありますね。静かで穏やかな会話を楽しみたいくて議論を嫌う人はこの掲示板を嫌うかも知れません。そのような方は別の掲示板に移った方がよいでしょう。私はむしろ「朝まで生テレビ」のように五井先生のみ教えについて徹底議論をしてほしいと願っているのです。自分の意見を如何にしたら相手に聞き入れてもらうかを研究し、同時に相手の意見も理解しようと努めながら聞くという真面目な議論は、たとえその議論に結論が出ないで平行線のまま終わったとしても、少なくとも相手の意見はどのような内容で、相手は何を考えているということが分かるのですから、双方ともに相手を理解する上で十分に意義のある議論だったと言えるのです。

昨日の議論は非常に有意義な議論だったと思います。特にWさんのご意見については、この掲示板で昌美先生信仰者（または唯一会批判派・中立派）の人が誰も今まで書いていなかった内容で、そうした真面目なご意見こそ私は待ち望んでいたものなのです。Wさんは、「自分は神の分け命なんだ」とハッキリ心に言い聞かせて」という五井先生のみ教えを五井先生のご本から具体的に抜粋し、次のような分かりやすいご意見を書かれました。

【Wさんのご意見-1】

私が五井先生のご法話を〔掲示板に〕書き込んだ理由は、五井先生のみ教えには「人間神の子」と唱える行法を否定しているように見える部分と、それとは別に現在の昌美先生の指導に近いような部分も実はあるんだということを、この掲示板を見ている人に知ってもらいたかったからなのです。ここの掲示板の唯一会の方の書き込みを読むと、五井先生は我即神也と思うことを全否定しているかのような印象が強いのですが、実はそうではないということをご法話から知ってもらいたいのです。五井先生は、その指導において、私の引用したご法話のように、『自分は神のわけ命なんだ。実は神なんだ』と思いなさい」という指導もされているのです。その指摘をしておきます。

【お答え-1】

上記のWさんのご意見は、これまで掲示板に出たことがありません。今までは、感情的になって「昌美先生への批判をやめろ」と叫ぶだけで説得力のないご意見ばかりでしたが、Wさんはご自分の体験談（昌美先生の行法をやってみての効果）をお書きになって、根拠として五井先生のみ教えを抜粋し、「だから昌美先生の教えも正しいのだ」と結論づけているのは、実に分かりやすく論理的で、説得力のある文章です。五井先生のご本もよく読まれている方であると思われます。このようなWさんのご意見はとても好感の持てるものです。「昌美先生がどうのこうの言うのはおやめになりませんか？」と昌美先生への批判を頭ごなしにやめさせようとする前に、Wさんのように昌美先生の行法をやったご自分の体験談をお書きになり、「昌美先生の行法はこんなに素晴らしい効果があった」「昌美先生の教えはこの理由で正しいのだ」という説得力のある論理的なご意見こそ私は待ち望むものです。

昌美先生の「我即神也」という言葉そのままは使ってはいませんが、「自分は神の分け命なんだ。実は神なんだ」と自分に言い聞かせる方法を五井先生も説かれていることはその通りの事実で、それはご指摘を受けるまでもなく、私も既に以前から知っていたことです。Wさんが「五井先生のみ教えには『人間神の子』と唱える行法を否定しているように見える部分と、それとは別に現在の昌美先生の指導に近いような部分も実はあるんだということ、この掲示板を見ている人に知ってもらいたかった」とご指摘されているように、

五井先生のご法話には確かに矛盾とも思えるような二つの教えがあるのです。

白光真宏会と唯一会は同じ五井先生の教義を信じ、同じ「世界平和の祈り」を祈っているわけですが、ご指摘のあったこの点の解釈の違いによって、白光真宏会と唯一会の指導法が大きく異なってきているのです。ここが非常に重要な点なのです。（そこで私は五井先生の二つの教えについてどう解釈しているかを唯一会で教えているのですが、これは一言ではとても教えられない内容なのでまたの機会にします。）

「世界平和の祈り」は最易行道

【Wさんのご意見-2】

五井先生は本心と業想念の区別の無い観念的神の子観を否定されたのであって、本心と業想念の区別に立った人間神の子観は否定されていないし、先に投稿した五井先生のご法話からも、本心と業想念の区別に立った人間神の子観を行わずのやり方でもよいと言っているではありませんか。私は現在の昌美先生が説かれている神の子観も、もちろん本心と業想念の区別に立った人間神の子観であり、観念的神の子観ではないと理解していますが、森島さんはなぜ観念的神の子観であるという決め付けをなされるのですか？（五井先生は生長の家の教え全てを否定されていませんよ！）

【お答え-2】

「我即神也」とは「私は神である」という意味であることは昌美先生のご法話で明らかです。「私は神である」と宣言することは「私には業想念は無い」と宣言することと同じです。業想念は無いのですから、本心と業想念の区別をつける必要はありません。

五井先生は「本来、私は神である」と説いているのでありまして、「今の私は神である」「今の私には業想念は無い」と説いているのではありません。五井先生は「現在の人間は神性顕現に至る途中（プロセス）の段階にあり、現在の人間はまだ神の子ではない」と説き、現実の業想念の存在を認めているのです。業想念は現実には存在するからこそ本心と業想念の区別が必要となってくるのです。

「私は神である」と宣言する方法は、本心と業想念の区別に立った人間神の子観ではないのです。現実の業想念の存在を無視した真理に片寄った人間神の子観であるのです。「私は神である」という真理の宣言は、「私には病気も不幸も悪も無い」と宣言することと同じであるのです。しかし、現実には悪も病気も不幸も存在するし、悪人も病人も不幸な人もいるし、国どうしの紛争や戦争も存在しているのです。このような現実の業想念の存在を「無い」と見ることは、余程の聖者でしか思うことはできません。普通の心境の人が現実の業想念の存在を「無し」と見ることはできません。ですから、「悪も病気も不幸も無い」として、「私は神である」と真理を宣言するには無理があり、どうしても観念論的人間神の子観になってしまう、というのです。

【Wさんのご意見-3】

現在の白光の「我即神也・人類即神也」の行法は「本心と業想念の区別」に立った行法であり、消えてゆく姿で世界平和の祈りと同様に、消えてゆく姿で「我即神也・人類即神也」であります。

【お答え-3】

「消えてゆく姿で世界平和の祈り」と同様に、消えてゆく姿で「我即神也・人類即神也」と行じるのは非常に矛盾していると思います。五井先生の「世界平和の祈り」は業想念の存在を認めていますから「消えてゆく姿」がありますが、「我即神也・人類即神也」は、業想念の存在を認めないで「私は神である・人類は神である」と真理実現を既に宣言しているのですから、今更「消えてゆく姿で我即神也」と説くのは、どう考えても非常に矛盾していると言わざるを得ません。これは「我即神也」だけでは現実の悪現象に対する説明がつかなくなったので、五井先生の教えの「消えてゆく姿」の教えを後から無理に付け加えたのです。「我即神也・人類即神也」とは、「悪も病気も不幸も無い。我即神也・人類即神也」と真理を宣言する意味であると私は解釈しております。

【Wさんのご意見-4】

私たちはこれから未来に神になるのではなく、既に神である自己が存在しているのです。肉体人間はどうあがいても神にはなれません。五井先生のみ教えは肉体という限定されたものが神になるのではなく、肉体を動かしている生命の元となる真の自己を現すことだと思います。(悟りを求めた釈迦が、悟りを開いてみると、永遠の昔から仏であったことを悟った。)

【お答え-4】

「既に神である自己が存在しているのです」と言っても、神であるあなたは神界に本体として実在しているのでありまして、現実のあなたは神として存在しているわけではないでしょう。現実のあなたが神として存在していると言い切れるならば、釈迦に説法で、私は何も申し上げることはありません。「私は神である」と言い切れる人は聖者か偽善者かのどちらかだと思います。

【Wさんのご意見-5】

我即神也の行法は、永遠の昔から仏(神)であった真の自己を思い出すためのものであって、神の子になるための行法ではありません。だから、人に向かって「我即神也」と宣言することはありません。あくまで真の自己を思い出すためにするものであります。記憶喪失状態から真の自己を思い出すためにするのです。

【お答え-5】

「我即神也と宣言し続けてゆけば、神になれる、神になる」という教えを白光誌で読ん

だ覚えがあります。また、「我即神也」の注釈にも、「この宣言をすることによって、神そのものの自己の真の姿を顕現し、人類に示してゆくのです」とあります。ですから、「我即神也」とは神の子になるための行法と解釈しておりますが、真の自己を思い出すのも神になるのも、神性を顕現するのも、修飾的表現が異なるだけで、意味に大した違いはないと思います。

生長の家の教えは、「悪も病気も不幸も無し。人間神の子完全円満論」と「心の法則論」の二元論です。それに五井先生の「悪も病気も不幸も消えてゆく姿。人間本来、神の子完全円満論」を加えて一緒くたにしますと、三つの矛盾し混乱した三元論になってしまいます。

「世界平和の祈り」一元論の生き方は、真理に把われませんから、観念論にもならず、偽善にもならず、無理に偉そうに力むこともありません。正直に生きることができて、非常に楽に生きることができます。「世界平和の祈り」一元論の道は、自分を責める必要もなく、他人を責める必要もありません。明るく正直に生きることのできる大光明最易行道が「世界平和の祈り」の道であるのです。

【結論】

ともあれ、WさんはWの信じ選んだ道を自由に行かれればよいのです。Wさんご自身ご自分の選んだ方法で真の自己を思い出して下さればそれで結構です。その時はこの掲示板で発表なさって下さい。Wさんが真の自己を思い出す日をお待ちしております。

宗教問答4：真実は未来に明らかとなる

あなたの信じる道を行きなさい

【ご意見-1】

五井先生が果たして森島さんの主張通りのことをおっしゃっているかどうか、ご著書を紐解いてみたのですが、五井先生は頭ごなしに「私は神である」というやり方は否定されていないということは明白でしょう。それなのに、なぜまだ自己の主張に固執されるのですか？ あなたが否定していることを五井先生は必ずしも否定されていないではありませんか。

【お答え-1】

見解の相違です。五井先生は様々な角度から多様な表現を用いてみ教えを書かれています。五井先生のご著書の一部だけを見ては、み教えの一面しか分かりません。そこで、全てのご著書を読んで総合的に整理して解釈する必要があります。五井先生の他のご著書には、「我は神なり」という言葉を例に出して、その宣言行についてははっきりと否定

されている文章もあります。

私は正しい宗教と誤てる宗教の違いを述べているのでありまして、あなたに「我即神也という宣言行をやるな」とは申しません。私の主張や見解が誤りであると思うならば私の言うことを信じる必要はありません。あなたが信じていることを実行されたらよいのです。

【ご意見-2】

森島さんの解釈においては偏った部分を感じてしまいます。そもそも廣大無辺なる五井先生のみ教に唯一最高などという限定はつけることはできないし、その必要もありません。

【お答え-2】

これもあなたが五井先生のご著書をよくお読みになっていないからで、五井先生は「世界平和の祈り」の行について、唯一の行、最高の行という意味のことをしばしば書かれています。この問題は過去にも論議されたことで、答えは既に決着済みです。

【結論】

とにかく、あなたが信じる道を一生懸命おやりになることです。「我即神也」でも何でもいいから、真剣にやっていたら、その結果は現れてきます。あなたの信じる「我即神也」をおやりなさい。そして、真の自己を思い出すことができたら私に知らせて下さい。その日を楽しみに待っております。

真実は未来に明らかとなる

昌美先生の教えを全て信じている素直な昌美先生信仰者（以後、簡単に昌美先生ファンと呼ぶ）の一部から何度も「批判をするな」とか「比較をするな」と私は言われ続けてきました。私の言動を理由も言わず、頭から抑圧しようとしてきたのです。自由な発言を威圧的に束縛しようとしてきたのです。しかし、「批判をするな」という主張も一つの批判でありまして、その人は私を批判していることに気づかなければなりません。「比較するな」という主張も、やはり同じく自分の考えと他者の考えを比較しているからであって、その人自身が比較しているのです。「批判をするな」という批判をし、「比較をするな」と比較しているわけです。ですから、そんな自己矛盾したお話は私は受け入れられないのです。これからも多くの人から繰り返し言われるでしょうが、「批判をするな」「比較をするな」と、ただそれだけを何度言われても、絶対に私は誤てる宗教を批判することをやめませんし、正しい宗教と過てる宗教を比較をすることもやめません。

私がWさんの主張を高く評価している点は、過去の昌美先生ファンとは違って、「昌美先生の教えが五井先生の教えと同じである理由」について具体的に五井先生のご著書から教えを引用されて、「五井先生も昌美先生の今の教えと同じようなことを書いているでは

ないですか」と昌美先生の教えの正当性を示した上で、「昌美先生の提唱する行法をやってみて、こんな効果がありました」とご自分の体験を述べていることです。Wさんのこうした真面目な態度に私は好感を持ちました。

ただ私が議論の途中で姿を隠したのは、Wさんのご意見を読んでいて、「私から学ぼうという気持ちはないようだな」と判断したからです。「学ぼう」という謙虚な気持ちのある人には私もお答えする気になりますが、「学ぼう」という気持ちのない人にはお答えする気になりません。学ぶ気持ちがない人には、私が何を説明しても、その人の頭には入ってゆかないから無駄であるのです。無駄なおしゃべりをして楽しむほど私も若くはありません。今後は、私を信じてついてくる弟子や謙虚に学ぼうとやってくる人たちを教育することに私は全力を注ぐつもりです。

なお、私の代わりに主に A さんが答えて下さいましたが、WさんとAさんの議論は、お互いの主張の相違点を明確にして、お互いに相手の主張を理解するかしないかは別にして、知り得たことは有意義であったと思います。現在はお互いの宗教観が異なっていたとしても、「世界平和の祈り」を祈り続けてゆけば、誤てる解釈はいつしか消えてゆき、真実の解釈だけが残る、私たちの心は自然に一つに融合してゆくのです。それを今すぐに一つに合わせようとするから、そこに無理が生じるのです。Wさんのおっしゃる通り、今はお互いに自分の信じる道を進んでゆけばよいのです。

長い年月歩く人がなく、雑草に覆われ隠れていた道を切り開くように、「世界平和の祈り」唯一行という最も易しい易行道を私は改めて切り開きました。体の不自由なお年寄りでも、小学生の子どもでも、宗教宗派、民族国家を超えて世界中の誰もが易しく理解できて安全に霊性を開発できるこの「世界平和の祈り」が広まらないわけがありません。「世界平和の祈り」によって私が救われたように、私を信じてついてくる人たちが次々と「世界平和の祈り」だけで救われております。この驚くべき奇蹟は一体何を物語るのでしょうか。真実は未来に明らかとなることでしょう。